

印象の遠近

ヤマガミユキヒロ

2019.4.12 Friday _ 28 Sunday 11:00 _ 19:00
11:00 _ 20:00 on Friday / closed on Monday

Gallery **P A R C**

展示什器制作・大村大吾

GRAND MARBLE

KGT

本展は京都市内を舞台に開催される「KYOTOGRAPIE 京都国際写真祭2019」のサテライトイベント「KGT」のスペシャルエキシビションとして五月三日から十九日まで開催する田中和人による個展「Self-Dual」を併せて作品の技法としてのみならず、表現における思考や眼差しに写真、映像を組み込む作家による連続展として開催します。

Statement

時間とともに移ろい過ぎ去っていく風景を写真やビデオでスケッチしてみると、普段見落としていた景色と出会います。サンプリングされた景色の断片の中には、驚くような美しい表情や、神秘的な表情、ぞっとするような瞬間があります。その中で出会う興味深い瞬間を、僕は掬い上げて、物語を組み立てています。

これまで古典的な西洋絵画の作画方法である透視図法構図によって、絵画と映像(カメラ)を用いて作品を制作してきました。しかし、京町家が川に沿って南北に並ぶ鴨川の風景を描こうとした時、まるで奥行きが消えたかのようなその印象をこれまで描ききれずにいました。

そうして試行錯誤をするうちに「常に対象物の正面に立つことで、できる限りパースペクティブを平坦にすることで、鴨川の風景を正確に捉えることが出来るかもしれない」と考えました。この制作に取り組み中で、なるほど多くの大和絵や浮世絵などが平面的に作画しているのは、このような印象を描くためなのか、と考えたりもしています。

本展览展示作品はまだ未知な部分の多いのですが、「何か」の第一歩になる作品だと考えています。

ヤマガミユキヒロ

二〇〇〇年に京都精華大学美術学部を卒業したヤマガミユキヒロ(一九七六年大阪府生まれ)は、「キャンパスプロジェクトクション」という独自の手法による作品を展開しています。その作品は、綿密なりサーチにより選び出したロケーションから、建築や構造物を鉛筆で丹念に描画した風景画(絵画)に、同一視点から撮影した風景(映像)をプロジェクトクレーターにより投影するものです。幾度も取材を重ねて撮影した朝昼夜や春夏秋冬の光と色彩の変化、流れる雲や行き交う人々などの「時の流れ」が重ねられたとき、ある一瞬を描きとどめたモノクロの世界にうつろう時間が流れはじめます。

本展では、二〇一四年に新宿・アルタ前の風景を長期に渡って取材して制作した作品《都市の印象》を展示いたします。行き交う人々や車、多くの看板やインフォメーション、ネオンや電光掲示板など、雑然とした都市のうつろいとともに、ビルの間から遠く抜けるように広がる空の表情の変化を見ることができます。また、本展では同時に、ヤマガミが近年に興味を寄せ、制作に取り組んでいる新作《鴨川の印象》を発表します。本作は京都の四条大橋から三条方面に向かう鴨川沿いを西に向いた風景を題材に、キャンパスプロジェクトクションよりその風景の印象を描き出そうとするものです。しかし、本作品においてヤマガミはこれまでの一点透視図法による描画の構造を放棄し、複数の視点を導入した絵画制作に実験的に取り組んでいます。

ヤマガミは本作品の制作プロセスとして、まず四条大橋の袂をスタート地点に、一回三分ほどの撮影(静止画と動画)をおこなった後、カメラを北側(三条大橋方向)におよそ四メートルほど移動させて再び撮影をおこない、最終的にこれを76回繰り返すことでおよそ三〇メートルの区間の「鴨川沿いの風景」を撮影しています。次に、撮影した76の素材(静止画)から、それぞれ画面の中心部分のみを切り出して横に連続させて張り合わせることで、「遠近感がほとんど発生しない風景」をつくり出し、それを資料として参照しながら幅七メートルを超える和紙に墨で風景を線描しています。また、そこに投影する映像も同様に76の素材(動画)を合成・編集していきます。

この制作方法は作品の上に現実とは異なる様々な不整合を生じさせていますが何よりも作品上の「時間の在り方に興味深い特徴が現れてきました。たとえば、三分の撮影を76回繰り返す制作方法は、合計で五時間あまりの時間を要するものとなり、朝焼け間近の朝四時ごろに画面左から始めた撮影は、画面右に到達するころには十一時近くとなりました。その結果、作品上には朝焼けから昼、あるいは夕刻から夜までの時間が横に向かって流れるように存在しています。また、遠近感がほとんど発生しない風景であることは、その描画においても多くの構造的矛盾を含み、それらは線描において絵画的に解決されているものの、実際の映像と重ね合わせた時には画面上には多くのズレや不整合が生じています。

しかし本作品が「絵画」写真「映像」としてあることは「田」レンズ」などで多くの矛盾を含んでいたとしても、ヤマガミがこの方法を用いて「遠近感がほとんど発生しない風景」を描くには、「それが鴨川沿いの印象を描くのに最適ではないか」と確信したことにあいます。また、そことはヤマガミが描こうとする対象が、これまで同様にその場その風景の「印象」であることを示しています。

一点透視法と空気遠近法による作品《都市の印象》(画1.5E 幅3.4E)と、遠近法を廃することにより大和絵や浮世絵にも似た新作《鴨川の印象》(画1.0E 幅1.7E 未定)の二点の大型作品によって構成される本展「印象の遠近」では、写真(レンズ)や絵画(田)における遠近(感・法)の違いを手がかりに、では私たちの「印象」が何から、何処から発生しているのかについて、考えてみることもできるのではないかとしようか。

Perspective of Impression Yamagami Yukihiko

ヤマガミユキヒロ

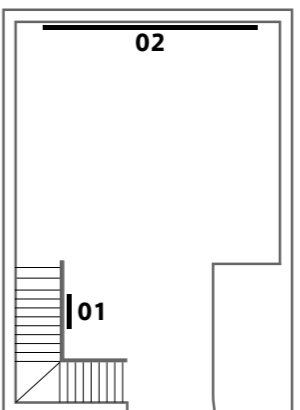
<http://www.yamagamiyukihiko.net>

Profile

一九七六年大阪生まれ。二〇〇〇年 京都精華大学美術学部卒業。日常で見慣れた風景を鉛筆や墨などで描画した絵画に、「同一視点から撮影した映像をプロジェクトクレーターによって投影する」キャンパスプロジェクトクション」という絵画に光と時間を取り入る独自の手法により作品を制作。これまで東京スナーションギャラリー、アサヒビル、大山崎山荘美術館、川崎市岡本太郎美術館などでの展覧会に参加。また、二〇一四年からは能楽との「ラボレーション」に「noh play」をプロジェクトに取り組み、二〇一六年に「noh play 2016」(札幌市教育文化会館)、「二〇一七年に東アジア文化都市2017京都開幕式典」の「noh play TAMURA」(ロームシアター京都)の舞台芸術を担う。

Works

二階展示室



01 Night Watch 習作

Night Watch study

2004 pencil on tracing paper w:72cm x h:61cm

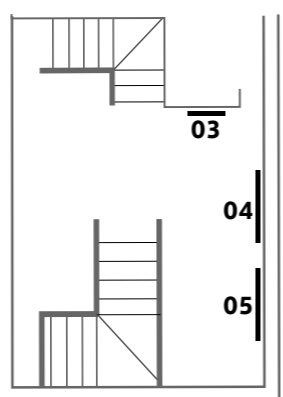
02 都市の印象

Impression of a city

2013-2014 pencil on painted plywood, colour high definition video projection
10 min 10 sec w:340cm x h:250cm x d:4cm

R:新宿駅東口・アルタ前の風景を大画面に描いた作品。行き交う人や車、乱立する看板の多さとともに、東新宿三丁目に抜けて見える空の表情もこの場所の印象として描かれている。

三階展示室



03 無題 (透視図法・平行図法)

untitled

2018 polaroid picture w:72cm x h:62cm x d:4cm

四階の展示作品《鴨川の印象》の構想前に、透視図法の違いと鴨川の印象の差異を確認するために、ポラロイドを用いて制作した試作。透視図法が明確な上段のイメージに比べ、平行に移動しながら撮影した鴨川に、ヤマガミは実際の印象が重なると感じ、作品制作の方向性を「視点の平行移動」による構図とすることに決定した。

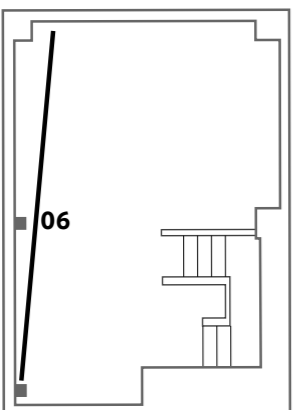
04-05 鴨川の印象 習作

Impression of Kamogawa study

2019 c print w:106cm x h:36.5cm

《鴨川の印象》を制作するにあたり、「視点の平行移動により撮影した76枚のプリントからそれぞれ中心部分のみを短冊状に切り取り、連続させたもの」04」には画面右の夕刻から左に「05」には画面左の明け方から右に流れる時間(撮影時間の変化)を見ることができ。

四階展示室



06 鴨川の印象

Impression of Kamogawa

2019 India Ink on paper, colour high definition video projection
6 min 10 sec w:782.6cm x h:194cm

和紙七面を用いた作品として構想されている本作品は、現在は中央の五面のみを描画されている未完のもの。本展示を通じて映像の編集方針や描込みの密度などについて、考察・検討することで、今後「多くの改良を施すもので、本作品はその出発点となる作品として展示していく。